

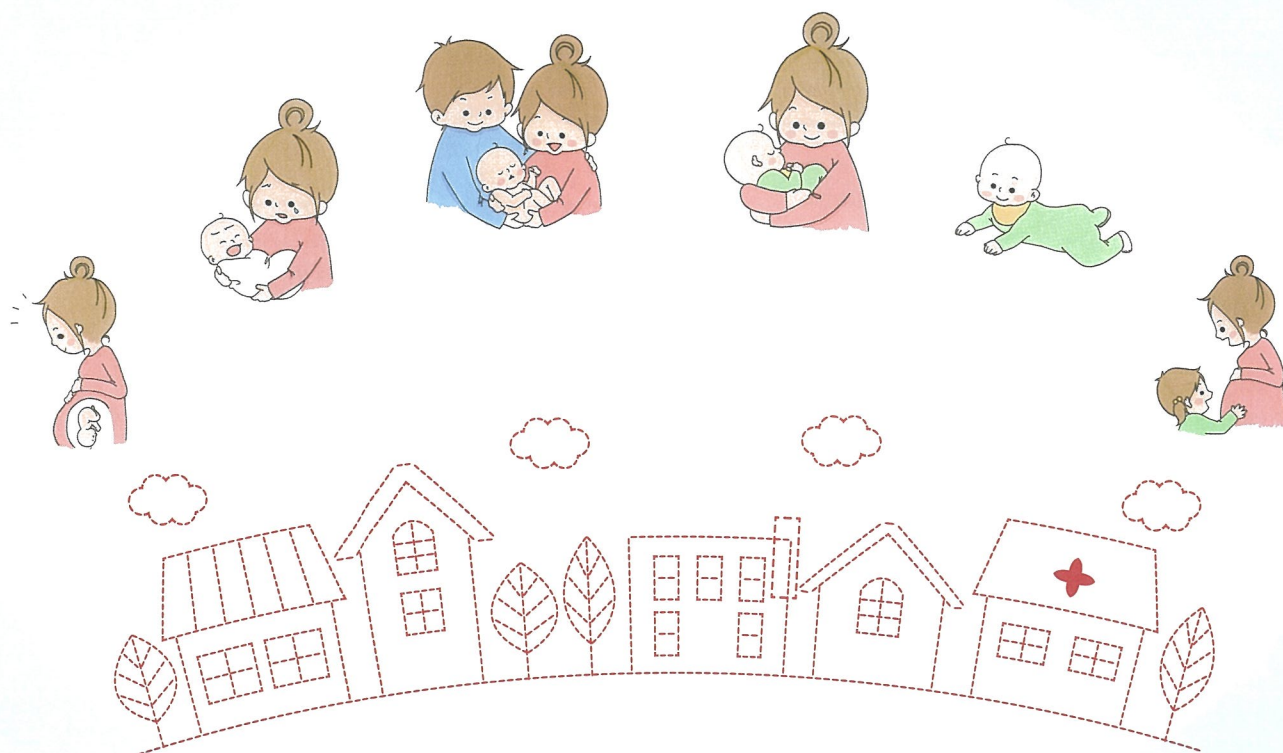
2019 年度

特例認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団 助成事業実施報告書

独立行政法人福祉医療機構

社会福祉振興助成事業 地域連携活動支援事業

専門職が行政・医療・民間企業と連携し
妊娠期から切れ目なく
包括的に支援する事業
実施報告



特例認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団

令和2年3月

専門職が行政・医療・民間企業と連携し 妊娠期から切れ目なく包括的に支援する事業

実施期間：2019年4月～2020年3月

活動拠点：親とよいこのサポートステーション

はっぴいmamaはうす

産前産後妊産婦支援事業

対象：妊婦さんおよび出産後のママと赤ちゃん

●産前・産後デイケア 日時：ご希望の日 場所：当施設 個室
開催時間：10:00～15:00（好きな時に来て、好きな時間に帰れます。）
通常、会員 6,500円、非会員 8,000円が（2020年3月まで）1回 **2,000円**

●産前・産後訪問ケア
助産師・保健師・看護師などの専門職が、ご自宅に訪問。
通常、1時間 会員 2,500円、非会員 3,500円が（2020年3月まで）1回 **1,500円**

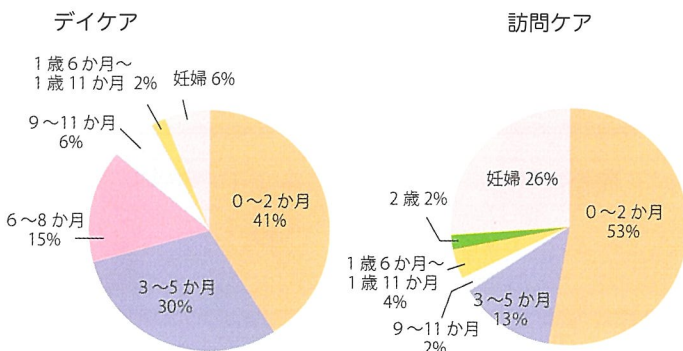
【ケア内容】専門職が、ママと赤ちゃんの状態やご希望に合わせて対応。

- 妊娠中～産後、ママの体調に関する相談（冷えとり・骨盤ケア・食事指導など）
- 赤ちゃんの成長（体重測定など）・発達の観察（首のすわり、寝返り、ハイハイなど）
- 赤ちゃんのお世話の仕方・抱っこや寝かせ方など育児全般にわたるお悩み
- 授乳相談（回数・量など飲ませ方、添い乳の仕方や哺乳量測定など）
- 赤ちゃんの沐浴指導・介助 など

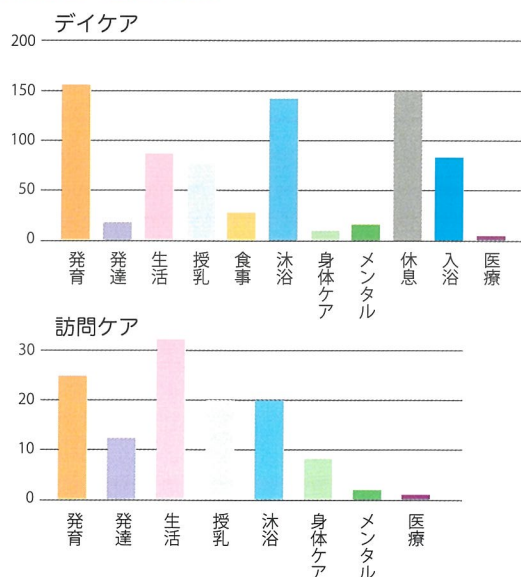
【利用者の人数】（）は昨年度利用者人数

	産前産後デイケア			産前産後訪問ケア		
	実人数	延べ人数	平均利用日数	実人数	延べ人数	平均利用日数
産前	3(2)	12(4)	4.0(2.0)	14(10)	14(10)	1.0(1)
産後	68(52)	179(126)	2.6(2.4)	20(34)	41(121)	2.1(3.4)
合計	71(54)	191(130) 昨年度比147%増	2.7(2.4)	34(44)	55(130) 昨年度比58%減	1.6(2.9)
双子	7(4) 全体の9.9%	27(9) 昨年度比300%増	3.9(2.3)	1(0)	2(0)	2.0(0)

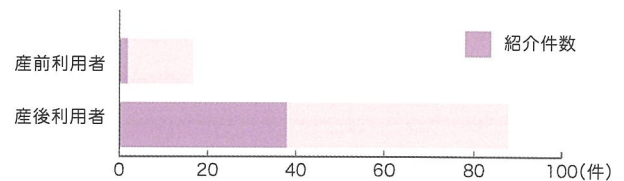
【利用時の子どもの月齢】



【利用者の相談内容】



●保健・福祉・医療機関との連携ケースは、**実人数 合計105件中40件(約38%)**。



●デイケア利用状況

- ・延べ利用者数は昨年度比147%増の利用があった。利用回数は、1回～26回。
- ・双子児の利用は昨年度の3倍に伸びた。双子児の平均利用日数は3.9日であり、全体の2.7日に比して1.2日多かった。
- ・産前の利用は、6%であった。
- ・産後2か月までの利用が40%を占め、80%は利用回数は1～3回であった。
- ・2回以上利用は71組中41組（リピート率58%）
- ・191件中97件は送迎支援を利用した。（46%）

●訪問ケア利用状況

- ・産前の利用者は全体の26%であった。
- ・産前の利用は全ケース1回の利用であった。
- ・延べ利用者数は昨年度比58%減の利用であった。（昨年度は、沐浴支援のための連日訪問が多かった。）
- ・利用回数は、1～12回。12回訪問は沐浴支援のための訪問であった。
- ・2回以上の利用は34組中6組（リピート率18%）

【利用者の声】

●デイケア

「体を休めるだけかと思っていたのですが、今気になっていることや不安なお話をできてとても安心できました。」
「子どもをお風呂に入れていただき、私も一人で寝れ、風呂にも入れ、美味しいご飯も頂けて…子どもが生まれる前は当たり前だったことが今は一つ一つこなすだけでも大変。今回リフレッシュできて良かったです。また利用したいと思います。お世話していただき、ありがとうございました。送迎も本当に助かりました。」

●訪問ケア

「妊娠中から利用させてもらっています。出産や育児に漠然とした不安がありましたが、ここでいろいろ相談出来てまた、産後は訪問ケアなどしていただいている不安も解決できて心強かったです。」

小児科医による発達相談会

小児科医（よいこの小児科さとう医院）が、サロン内で母親たちの相談に対応し、日頃の悩みについて聞けることで早期解決につなげる。

対象：サロンに参加中の妊婦および産後の母親と子ども

【開催回数および参加人数】

月1回 13:00～14:30 年間8回開催 参加人数：延べ91組

(5.7月は医師の都合で中止。2020年2.3月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止)

【内容】テーマを決めてミニ講義を実施し、その後医師に質問して直接応えてもらい、気になることがあるときはその後専門職に質問することができる。

主な質問内容：「感染症」「アレルギー」「メディアとの付き合い方」など

【参加者の声】

「だんだんと目が離せなくなってくるので、怒るのではなく見守るようにしたいと思います。」
「テレビやスマホを見せるうえで注意しようと思いました。」
「メディアとの付き合い方をもっと改めようと思った。」



地域企業との連携

妊婦も参加できる子育て公開講座・イベント開催

マタニティ・クリスマス公開講座

開催回数：2回開催（7月25日・12月20日）

場 所：新潟市天寿園（新潟市中央区）

参加人数：7月27組参加 うち妊婦14名

12月78組参加 うち夫婦参加5組 妊婦3組

協働企業：生活協同組合パルシステム新潟ときめき様



【内容】

- ・民間企業との協働企画により、子育てに役立つ知識を提供する講座。
- ・妊娠・出産に関する知識や、乳幼児の身体的・精神的な発達、心理学講座など、育児に役立つ内容の講座を開催し妊娠期からの関わりを増やす。
- ・夫の妊婦ジャケット着用による妊婦体験・赤ちゃん人形抱っこ体験など。



【参加者の声】

「同じ月齢の子がたくさんいて、自分だけじゃないんだなって思ってたよかったです。」
「新しい友達ができました。」
「ママとおしゃべりできて楽しかったです。」
「いろいろな赤ちゃん、お母さんがいることがわかり、気が楽になりました。」
「はびまががあると思うと安心できます。ありがとうございます。」
「来年も企画してほしいです。働いている人のために土日もあると大変うれいします。」

妊娠期から相談ができる

「妊婦子育てサロン」「妊婦育児相談会」の開催

妊娠期から切れ目なくいつでも相談できる場所の確保。

気軽に相談できる場があることで育児不安の増強を防ぐ。

母と子が気軽に立ち寄れる居場所を開放し、母親同士の交流を図り、引きこもり・孤立化を防止する。

●妊婦子育てサロン 週4回（月・火・木・金）10:00～15:00 開催
(2020年3月は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止)

●妊婦育児相談会 週2回（月・木）10:00～14:30 開催
(2020年3月は、予約制、個別で時間を区切って実施)

【開催回数および利用者数】

「妊婦子育てサロン」：年間158回開催 利用者 延べ1002組

「妊婦育児相談会」：年間150回開催 利用者 延べ471組

【参加者の声】

「同じ月齢を持つ子のお母さんとの交流がリフレッシュになりました。不安に思っていることが同じだったり、違うことがあったり自分の気持ちも明確になりました。」
「毎日家で子どもと2人きりなので、気分転換できてとてもよかったです。」
妊婦「妊娠期に助産師に話を聞いてもらったり、心拍を聞いてもらったりして、すごく安心、支えてもらいました。生まれたときに遊びに来ることができることが何よりの幸せです。」

子育て力向上のための各種講座開催

開催回数 / 参加人数

「べびいケア講座」 講師：保健師

乳児の発達について学び、発達を促すふれあい遊びなどを楽しむ。
対象：寝返りくらいまで（2～4カ月対象）

12回
53組

「抱っこ講座」 講師：助産師

妊娠中から参加でき、抱っこの仕方や乳児の発達などを学ぶ。
対象：妊婦から、産後の2カ月くらいまでの乳児と母親

9回
20組
(うち4名妊婦)

「離乳食講座」 講師：助産師

乳児の発達から離乳食について、進め方考え方などを学ぶ。
対象：離乳食を始めたころ、始めたばかりの児と母親

7回
31組

「メンタルケア講座」 講師：心理カウンセラー

心の仕組みや心の在り方などを学び、親子関係に活かす。
対象：心に興味関心がある方、子育てに少し困難感がある方など。

12回
53組

臨時公開講座「べびいケア教室」 2クラス開催 講師：助産師

乳児の発達を学び、児に合わせた働きかけ方や遊び方を知る。
対象 ①寝返り以降ハイハイくらいまでのクラス
②立ち上がり歩けるお子さん

2回
9組

【参加者の声】

「自分も赤ちゃんも快適な抱っこ、心がけようと思いました！色々教えていただけてよかったです。」
「離乳食を食べる赤ちゃんの身体（口の中）のことがわかったので、楽しみです。」
「自分の考えていること、気持ちに整理がつき、以前より冷静でいられるようになりました。ありのままの自分を受け入れ、認めることができたこと、自分を好きになることができたことがとても良かった。」

送迎支援事業

自家用車がない、運転が不安などで、自力では外出が困難な母親（養育者）と子どもに対し送迎を行う事で、引きこもり・孤立化を防ぐ。

【利用者数】年間 115件

(うち97件はダイケア利用者。その他は主に育児相談会への参加者)

【主な利用の理由】

- ・自家用車がない。
(転勤族・夫が仕事に乗っていくなど)
- ・免許がない。
- ・産後など、体調に自信がなく運転が怖い。

【利用者の声】

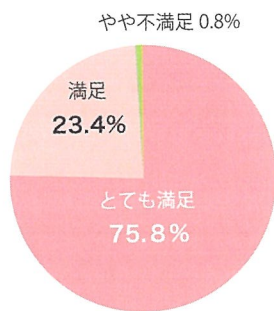
「車の運転ができなかったりして送迎して頂けることも本当に感謝しています。」



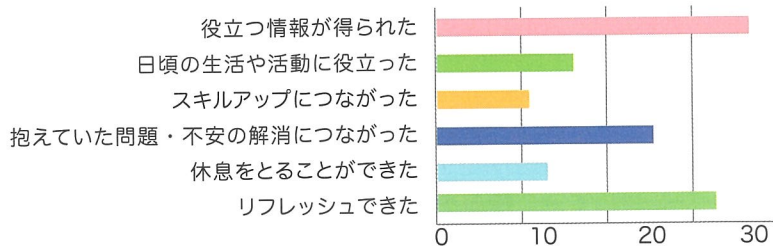
その他 従事者および支援者研修会など実施

アンケート結果（自由記載）

【利用後の感想】



53 件の回答



40

【当法人への要望】

- 土曜日だけでも運営していただくと非常に助かるなあと感じました。主人が土日祝で仕事で頼れないので。
- 子どもが生まれてすぐは自分のごはんや身の回りのことの方ができなくてストレスだった。（お腹すいたりして…）
- 無料で解放している日があるとよい。

【行政への要望】

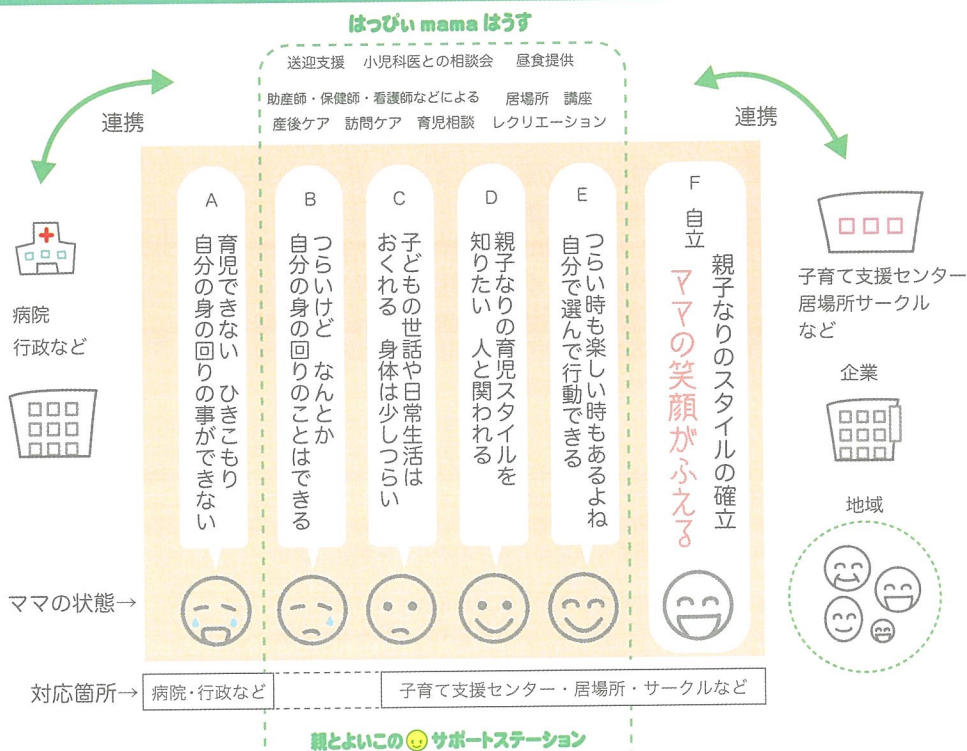
- 新潟市は家事代行サービスが少ない。（行政はないですね）
- ゆっくりできる（相談相手、知識のある助産師さんがいる、お昼が食べられる、おもちゃ等遊ぶものがある）mama はうすのような施設が近くにあるといいです。
- いつもお世話になっています。もっと同じように活動できる団体が増えるといいと思います。
- もっと助産院やこういう施設を増やして欲しいです。
- 県央にもこういった施設が欲しい。

小児科医・助産師・保健師・看護師が地域で手を繋いだ「妊娠期からの切れ目ない包括的支援」

子育て中は誰もが図の A～E を揺れ動いています。

親とよいこの😊サポートステーション はっぴい mama はうす

は、小児科医と助産師・保健師・看護師などの専門職が B・C のような少し辛いママの身体的・精神的なケアを提供できることが最大の特徴です。さらに、居場所や学びの場を提供し、その時々状態に合わせた支援活動をしています。また、行政機関など他の機関とも連携し、地域の中でママの笑顔を支える活動をしています。



子育てを取り巻く環境は、ここ数年、刻々と変化しています。更に 2020 年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、子育て家庭は大きな負担を強いられている。産前産後の孤立化を防ぐ支援が必要とされる時期に、外出や人との交流が難しい事態となっています。この社会情勢の中で、一人で悩んでいることがないよう、行政・医療機関と連携し、地域全体で支援できる体制を整え広く発信していく必要があります。

当法人は、いつでも駆け込み寺として存在する「ネウボラ」を目指しているが、これからはオンラインなど形を変えての「ネウボラ」にも取り組み、地域全体で母親を孤立させない支援を構築していきます。ご協力・ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

令和 2 年 3 月
特定非営利活動法人 はっぴい mama 応援団

特例認定特定非営利活動法人 はっぴい mama 応援団 代表理事 松山由美子

親とよいこの😊サポートステーション はっぴい mama はうす

〒950-0983 新潟市中央区神道寺 1-5-44 TEL 025-278-3177 (月・火・木・金 10:00~15:00)

mail : npo.hmo@gmail.com HP <https://www.happy-mama-ouendan.jp> <連携団体>よいこの小児科さとう医院

ブログ <http://ameblo.jp/happy-mama-house>

